

ひびき

教育目標：「なかよく かしく たくましく」

三本柱：さわやか挨拶 聞き方・話し方名人 いきいき運動

多治見市立共栄小学校 H31. 4. 27

【目を合わせ、心から耳をかたむけることの大切さ】

校長 宮地敏彦

いよいよ大型連休に入ります。休み時間に子どもたちと話していると、ほとんどの子が瞳を輝かせて、この連休で楽しみにしていることについて話してくれました。

学校では、今日までの3週間に新しい担任との出会いやクラスでの係決め、健康を確認するための各種の検診など、子どもたちにとって大きな変化がありました。一年生を迎える会のような大きな行事以外にも、授業や休み時間、給食など、子どもたちにとって楽しいことや嬉しいことはたくさんあります。また、嫌だったこと、残念だったこともあるでしょう。子どもたちはそれを話したい気持ちにあふれています。聞いてもらい、ともに共感してもらったり、ほめてもらったりすることで、心は満たされ、明日に向けてのエネルギーをたくわえます。

子どもの“生きる力”は、「耳」＋「目」で「心」から話をきく（聴く）こと、きいてもらうことによって培われていくものであると思います。

きょう、少し、あなたの子どもが言おうとしていることに耳をかたむけよう。

きょう、聞いてあげよう、あなたがどんなに忙しくても。

さもないと、いつか子どもはあなたの話を聞こうとしなくなる。

子どもの悩みや要求を聞いてあげよう。

どんなに些細な勝利の話も、どんなにささやかな行いも、ほめてあげよう。

おしゃべりを我慢して聞き、いっしょに大笑いしてあげよう。

子どもに何があったのか、何を求めているかを、見つけてあげよう。

そして、言ってあげよう、「愛している」と。

毎晩、毎晩。

叱ったあとは、必ず抱きしめてやり、「大丈夫だ」と言ってやろう。

子どもの悪い点ばかりあげつらっていると、

そうやってほしくないような人間になってしまう。

だが、「同じ家族の一員なのが誇らしい。」と言ってやれば、

子どもは自分が成功者だと思って育つ。

きょう、少し、あなたの子どもが言おうとしていることに耳をかたむけよう。

きょう、聞いてあげよう。

あなたがどんなに忙しくても。

そうすれば、子どももあなたの話を聞きに、戻ってくるだろう。

ウエイトリ一作

【心を育てる“もくもく掃除”】

共栄小学校には、“もくもく掃除”と名付けられた清掃活動があり、毎日無言で掃除に取り組んでいます。掃除を学校の教育活動として位置づけているのは、日本ではあたり前のことですが、世界では珍しいことです。（近年、日本を参考にして掃除を教育に取り入れる国ができています。）

スポーツの世界でも、多くの職場でも掃除は欠かせません、特にその世界に入って間がない人は、まずは掃除から始めると言っても過言

ではありません。なぜなら、「掃除」という活動には人の「心」を磨く要素があるからです。自分がお世話になっている場所（施設）に対する「感謝」、一心に汚れを磨いて落とす「ひたむきさ」、そこを使用する人に喜びや感動を与えようとする「謙虚さ」、日頃意識しない場所に目をとめ、そこに暮らす（活動する）人の生活を思いやる「視野の広さ」、人が面倒くさがるようなことを率先して行う「奉仕の精神」などです。

共栄小学校では、いつも「校舎がきれい」「磨く児童の背中が光っている」ように、更に掃除を頑張ります。（次回は無言で掃除に取り組む意義について掲載したいと思います。）

